



遠藤 誠 議員
(無所属)

問 シニアが活躍するために

この事業は、シルバー人材センターの事業と重なっている。当センターの現況で新しい人材が満足のいく活動の場としていけるか。社会福祉協議会、シルバー人材センターなど、公共的団体は精神的達成感が得られる活動の充実が求められるのではないかと考える。

答 社会貢献意識などを涵養していく

シルバー人材センターは、シニア世代の方が社会貢献活動や生きがいづくりなどを行う受け皿としての役割を担っていただけて考えている。また、受け皿となる団体には、社会貢献意識や参画意識を涵養する事業を展開していただくことが望ましいと考えている。

問 貸農園の活用を

市内に貸農園はどのくらいあるのか。地権者は税などの経済的理由や、荒廃させないために工夫している。さらに手法により補助金などもある。農地を保全するために貸農園を活用すべきではないか。膨大な農地の保全は、喫緊の課題であり早急に対策をすべきである。

答 農業法人などへの集積を優先していく

市が管理している市民農園1か所のほか、民間の貸農園が約50か所あると思われる。農地の保全は、農業法人などの大規模耕作が可能な農業者への利用集積を進めることを優先し行っていく。大規模耕作に向かない農地は貸農園も有効でないかと考える。



貸農園



石原富子議員
(開白会)

問 白岡高校をさらに盛り上げるために

県は2029年までに県立高校を今より1割減らす再編整備計画を発表。市内唯一の白岡高校がその対象にならないよう、学校自らが改革の意思を持ち、PTAや同窓会・後援会と共通認識の上で、今まで以上に地域と密着した高校に盛り上げるための方策を伺う。

答 魅力ある学校づくりを支援していく

白岡高校は、生徒が市の事業や地域活動に積極的に参加するなど、本市にとってかけがえのない存在である。市では、学校の魅力がさらに高まる効果的な取組を、市民や学校関係者の皆様など、「オール白岡」で支援していくことが重要であると考えている。

問 手話言語条例の制定を

聴覚障害者にとって手話の普及は日常生活や就業時、特に災害時においては必要不可欠なものだが、まだまだ十分とは言えない。障害者差別解消法が施行されて、全国的にも、また埼玉県や県内各市で制定の動きが広がっている。白岡市でも条例制定をしてはどうか。

答 手話言語条例を制定していく

条例の制定は、手話の普及と手話によるコミュニケーション確保の推進に大変有効である。

また、手話が言語であることを理解することは、聴覚に障がいのある方の社会参加の促進につながることから、手話言語条例を制定していく。

